

## ベトナム人リーダー養成、大阪で盛況 中小企業が派遣

2024/08/15 05:00 日本経済新聞電子版 1852文字

日本で働くベトナム人のためのリーダー養成講座が、今年の夏も大阪市内で開かれた。「カイゼン」など日本流の経営手法を教え、職場での実践に導く。言葉の壁をなくすためテキストはベトナム語で、講師とのやり取りにも通訳がつく。人材不足に悩む中小企業が有望な社員を送り込み、卒業生からは工場長も生まれている。

作業現場の動画を生徒に見せながら、講師が問いかける。「ランフイ・ラージー（ベトナム語で、ムダは何ですか）」。カイゼンについて議論するうち、生徒から鋭い質問が飛び出す。「職場ではお客さんから、そこまでやってくれるのかと感謝される。でも、やり過ぎはムダでないのか」

関西の産官学で構成する公益財団法人、太平洋人材交流センター（PREX、大阪市）が2024年7月に開いた「ベトナム人リーダー育成研修」のひとつ。14年から毎年同じ時期に実施しており、累計の受講生は49人、派遣企業は25社にのぼる。外国人が日本の習慣や言葉を学ぶ研修は多いが、リーダー育成は全国でも珍しい。

PREXの岡本譲・専務理事は「日本語が不自由な外国人は職場で孤立しがち。日ごろの疑問点が解消され、日本的な経営について理解が進めば、成長のきっかけをつかめる」と話す。ベトナム人に絞っているのは企業の要望が多いため、将来はほかの国・地域の人材にも対象を広げたい考えだ。

カリキュラムはカイゼンに経営理念、組織管理、人材育成を加えた4つのテーマからなり、平日の10日間を割いて、朝から夕方までみっちり学ぶ。「ベトナム人たちの貪欲に知識を吸収しようという姿勢に、いつも圧倒される」。講師を務める経営コンサルタントは目を細める。

24年に受講した6人の生徒のうちの一、グエン・ホアン・ニウさんは組織管理のなかで学んだ「金銭だけに頼らない動機づけ」が印象に残ったという。勤務先には8カ国、約20人の外国人がいるそうで、「どうすれば長く働き続けたいと皆に思ってもらえるか考えたい」と意欲的だ。

カリキュラムには講義だけでなく、先端的な中小企業を訪れる現場見学会もある。金属加工の山田製作所（大阪府大東市）では、3S（整理・整頓・清掃）活動を通じて破綻寸前から立ち直った経験を、同社の山田茂会長がベトナム人の生徒たちに語りかけた。

カオ・ニュ・グエンさんは企業それぞれの歴史に興味を持ったという。「山あり谷ありを経て現在があると分かると、日々の平凡な作業も大切に思えてくる。職場に戻ったら、自分の会社についてもっと話してほしいと社長に頼むつもり」と話す。

研修の最終日には、学んだことを職場で生かすためのアクションプランを各生徒が作成し、派遣元の社長や上司の前で発表する。その様子を我が子の授業参観しながら、うなずきながら撮影していたのが金属加工、川西製作所（大阪府松原市）の川西俊也社長だ。

5年前に採用したホアン・コン・ヴァンさんは、いまや生産現場を支える中核社員。今回の研修に派遣した狙いを「いずれは工場長になってほしい」と川西社長は話す。受講するためには1人15万円の費用がかかるが、参加企業は「成長のためには惜しくない」と口をそろえる。

実際、職場に復帰してから要職に就く生徒は多い。22年の受講生、チャン・バン・トゥンさんは金属加工の三栄金属製作所



現場見学では経営者から工場について直接説明を受ける（7月9日、大阪府大東市の山田製作所で）



副工場長を務めるチャン・ヴァン・バンさん。リーダー学校で学び、仕事への向き合い方が変わったという（堺市の津川製作所で）



レゴブロックを組み立てながら作業の効率性について学ぶ（7月8日、大阪市内で）

(大阪市)で田島工場(同)の工場長を務める。壁にはスパナ、ドリルといった工具類が分かりやすく掛かっている。研修で学んだ3Sを実践した結果だ。

特殊モーターを開発・生産する津川製作所(堺市)では、20年に受講したチャン・ヴァン・バンさんが3年後に副工場長に昇格した。「以前は自分の待遇のことに目が行きがちだったが、研修に参加してからは工場全体を良くしたいと心底から思えるようになった」と話す。

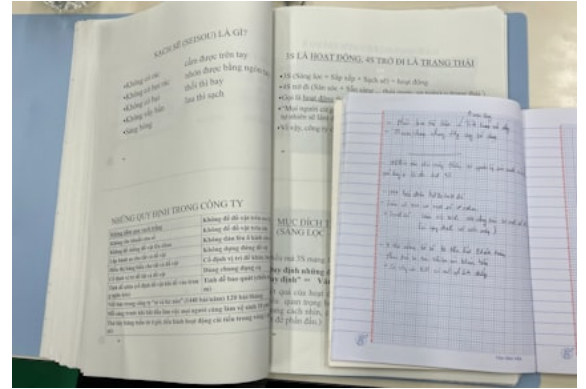
これまで外国人については、いずれ母国に帰る一時的な労働力とみなす企業が多かった。だが若い日本人が姿を消した中小では、外国人が主力となって働いており、そこから将来の幹部候補が育ちつつある。リーダー養成講座の盛況は、大企業の一步先を行く変化を映し出している。

(高橋圭介)

太平洋人材交流センター 1990年に設立。関西企業97社と大阪府市など6自治体が拠出した35億円を原資として運営している。会長はレンゴーの大坪清会長兼最高経営責任者(CEO)。主に国際協力機構(JICA)の委託を受け、新興国の行政官や経営者の研修を実施する。「ベトナム人リーダー研修」は独自事業の一つで、2022年度には基礎研修もオンラインで始めた。

【関連記事】

- ・課長も工場長も外国人材 200万人時代、中小の要に
- ・大阪の物作り「ベトナム人が継ぐ」 三栄金属の文社長



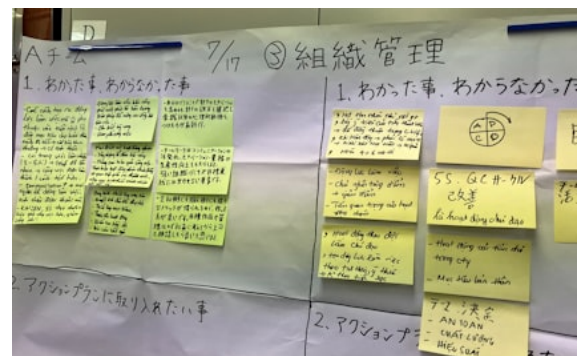
テキストはベトナム語で、講義もベトナム語の通訳がつく(写真はテキストと生徒のノート)



生産現場の見学にはみな興味津々だ(7月23日、大阪市内の三元ラセン管工業で)



最終日には派遣元の企業の社長や上司の前で、学んだことを職場でどう生かすかを発表する



カリキュラムが1つ終わるたびにみなで復習する



リーダー学校で学んだ後、工場長になったチャン・バン・トゥンさん（大阪市の三栄金属製作所田島工場）

**許諾番号30100177 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。**

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.